

失われた 20 年における企業と金融機関のバランスシート状況の変化と その実体経済への影響に関する分析

岡山商科大学 星野聡志

本研究の目的は、失われた 20 年において、金融機関あるいは企業のバランスシート状況の変化が、日本の景気循環変動に対して如何なる影響をもたらしたのかについて考察することである。そこで、本研究では、Iiboshi, Matsumae, and Nishiyama (2014)に従い、バランスシート制約に直面する金融機関と企業を動学的確率的一般均衡 (DSGE) モデルに導入する。さらに、金融機関と企業の自己資本に対するショックを加えることにより、それぞれの主体のバランスシート状況の変化について分析することを可能にした。そして、これらの特徴を有したモデルを日本のデータを用いて、ベイズ推定することにより、実証分析を実施する。

分析の結果、まず、90 年代以降の経済停滞期において、産出量の低下の大部分が、生産技術ショックによってもたらされることが示された。この一方で、この期間の企業の設備投資の変動については、投資の効率性 (MEI) ショックの影響が強く表れるものの、金融機関や企業の自己資本に対するショックといった金融的なショックの影響も、相応に作用していることが明らかとなった。とりわけ、この金融的なショックのうち、投資に及ぼす影響の程度については、金融機関の自己資本ショックによる効果が、相対的に強く表れていることも同時に分かった。